

### 3 高等学校における情報通信ネットワーク活用の実践

#### (1) 高等学校のネットワーク環境及び教育実践の概要

高等学校において、インターネット等の情報通信ネットワークを活用する場合、授業での利用以外に教職員の情報収集や情報交流、生徒の進路情報の収集などの様々な活用方法が考えられます。逆に学校外からのインターネット利用者には、各高等学校からの学校紹介、学校行事などの情報の提供、中学生に対する進路情報の提供などが考えられます。

##### ア 学校の概要

今回の研究協力校である京都府立の高等学校2校は、平成9年度に京都みらいネットと接続し、専用線でインターネットに接続されています。校内には、42台のパソコンがパソコン教室に導入されており授業などに活用されています。また、インターネット用のサーバが稼働しているため、学校独自に電子メールの送受信やWWWによる情報発信を行うことが可能です。

またこの2校は、内部ホームページサーバ、外部ホームページサーバの両方にホームページを公開しており、インターネットに自校の学校紹介等を発信しています。今回、この2校を研究協力校として依頼し、京都みらいネットの設備を活用した実践を進め、その運用上の成果や課題を探ることとしました。

##### イ 実践の概要

実践の内容は、それぞれの高校のホームページの中に中学生からの質問コーナーを作成し、中学生などが学校生活や教育課程など高校生活についての様々な質問をホームページ上に記入し、ボタンを押すことにより、高校の担当者にその質問がメールで送られるようにしたものです。高校内での起案手続を経て、高校内の担当者が、その質問に対して回答を掲載するという形で運用を進めていただくこととしました。このように今回の実践においては、高校の生徒ではなく、中学生と高校の間での連携として進めました。

##### ウ 質問コーナーのインタフェースについて

次の図3-9及び図3-10は、中学生が質問を記述し電子メールで送信するためのページです。

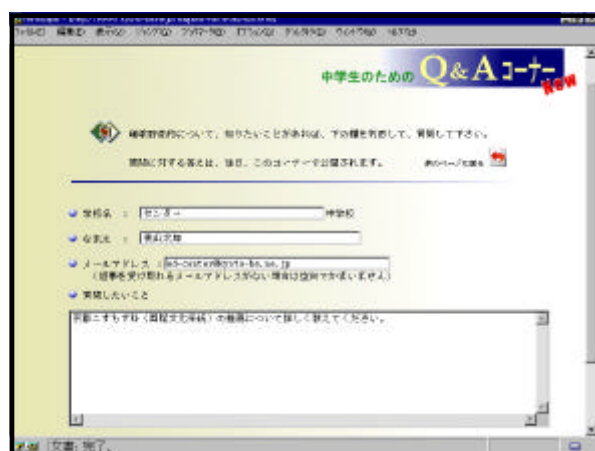


図3-9 質問を記入し送信するページ1

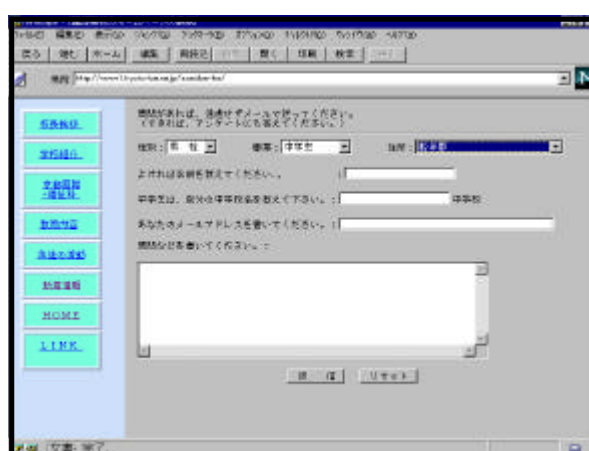


図3-10 質問を記入し送信するページ2

今回は、当総合教育センターのホームページサーバのCGIと呼ばれる機能を利用して、電子メールを送信する仕組みを作成し、そのシステムを利用して実践を進めることとしました。その仕組みの詳細は、両校の担当者で打合せをしながら検討し、将来的には、府内の全校での運用も想定して作成しました。

## エ 質問の状況とその内容

両高等学校と当総合教育センターの詳細な打合せ、機器設定、ホームページの更新、試行を経て、7月中旬には、準備が終了し運用に入りました。

実際には、2学期の始まる9月から11月にかけて質問メールが寄せられました。A高校では、企画研究部の情報教育担当者2名が質問メールが来たことを確認すると、その質問に関係する分掌に回答を依頼します。そして、その関係の分掌からの回答を得た担当者がホームページのデータに追加・修正するとともに校内で回議し、決裁後、内部ホームページにアップロードする作業を行いました。更に、外部ホームページサーバからインターネットに公開するために当総合教育センターに依頼をすることとしました。

質問の内容は、「説明会の日時を教えてください」「推薦入試について詳しく教えてください」「志望人数はどれくらいですか」「卒業後の進路情報を教えてください」「A科と他校との大きな違いは何ですか」「学校の校則について教えてください」「A科の時間割を教えてください」「部活動について教えてください」「研修旅行はどこに行くのですか」「留学制度はありますか」「勉強とクラブの両立は可能ですか」「男子と女子の割合はどれくらいですか」などでした。次の図3-11は、電子メールで届いた質問に対する回答のページです。

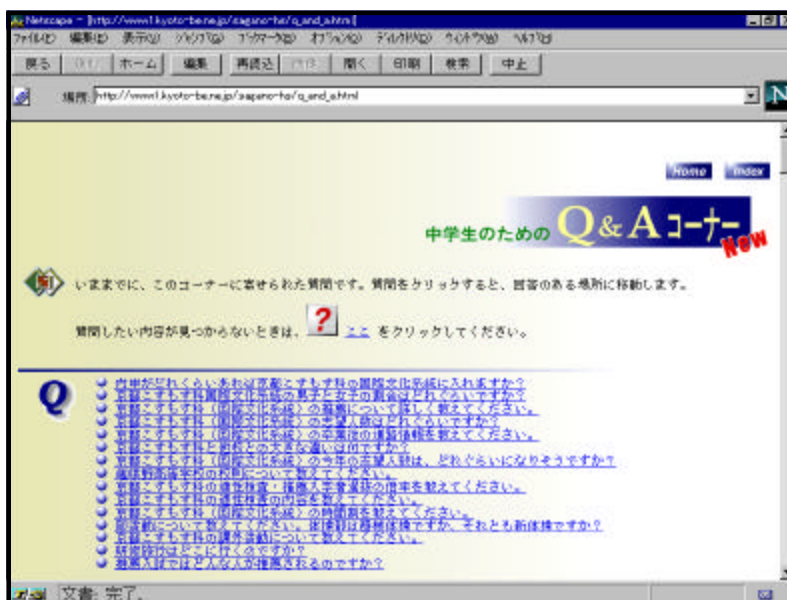


図3-11 中学生からの質問に対する回答のページ

### (2) 高等学校における実践の成果及び課題

今回の実践での学校における成果としては、「質問の回答をホームページに多く掲載することができたため、学校の詳細な内容が発信できたこと」「電子メールで質問を受け付けることにより中学生や保護者が、高等学校に対して感じている疑問が分かったこと」「自校から発信

しているホームページに対する反応が分かったこと」「入試に関する悩みなどについての相談を受け付けることも可能ではないか」などがあげられます。

課題としては、高等学校側の体制に関する点と質問メールに関する点の2点が明らかとなりました。高等学校の体制に関する課題は、「ホームページを作成できる教職員が限られているため、一過的な運用ではなく継続した運用の際には技術的な事項の引継ぎなどの問題があること」「学校の体制として質問メールをどのように活用していくかの課題が残されたこと」「一つの高校では、質問はあったものの校内体制上の問題でホームページでの回答まで至らなかったこと」などです。

また、質問メールに関しての課題は、「中学校での電子メールの利用については、現在ネットワークを整備中の中学校が多く、全体としては質問のメールが少なかったこと」「電子メールアドレスが書かれていなかったものも多かったため、直接返事を送ることができなかったこと」などです。

なお、どちらの高等学校も中学生や保護者のインターネット利用者は増加していくと思われるため、今後とも、この運用は継続して行きたいとの報告がありました。このように、以前なら高等学校の内容を知るには、学校説明会に出席するか高等学校に直接電話や手紙で聞く以外になかったのですが、この方法では、質問した中学生だけでなくそのホームページを閲覧したすべての者が質問と回答の内容を知ることができるため、今まで以上に学校についての情報を発信することができるようになります。これは、小学校や中学校など様々な校種で教育活動に活用できると考えられます。